

# 青年プログラム参加助成制度始まる

管区青年委員会で、上記の制度を設けることになりました。聖公会の青年が、何らかの研修等に参加する際に、青年自身が、この制度を用いて青年委員会に申請することにより、研修費用等の一部が補助されます。(ネットワーク事務局が窓口。)日本聖公会の青年たちが、キリスト教内外の様々なプログラムに参加し、その経験を日本聖公会、特に青年活動に活かすことを目的とするもので、今までも青年委員会で、エキュメニカル(超教派)のプログラム等に参加する青年に補助を出してきまして、それをより充実させるために始まりました。詳しくは、ホームページに掲載。

## 新委員選出

管区青年委員会の新委員に、東北教区の越山哲也執事と、京都聖ヨハネ教会の中井珠恵さんが選出。他現任の、八木正司司祭、黒田裕司祭、池住圭さん、野村潔司祭(委員長)の計六名。

## NCCによる中国訪問

九月一日〜八日にかけてNCC(日本キリスト教協議会)主催で第三回中国教会訪問代表団として派遣される機会を得ました。代表団は二三名。訪問地は、上海・南京・西安・北京。中国基督教協会・中国基督教三自愛国運動委員会の指導者との懇談、神学校、愛徳基金会の訪問交流、聖書印刷所、南京大屠殺記念館見学、国家宗教局訪問等を行いました。

さて、これからのキリスト教徒としての日中交流の行方ですが、一九八三年の第一回の派遣より交流が始まり、以後相互交流が深まるなか一九九六年第二回の派遣、そして今回で三回目の派遣となり、こうしてようやく相互の努力が実を結びトップレベルでの架け橋がようやく固まってきたようです。今回の交流で主に行われたことは、日本の過去の侵略に関する謝罪と、現在の時代をまた逆行するかなような日本政治の流れに対して日本のキリスト教徒は反対の立場をとることの意思を伝えること、そして次段階交流として神学生、信徒レベルでの人的交流を増やす機会を具体的に作っていくという提案です。これに対し、中国側は好意的に了承され、与えてしまった苦痛に対してイエスの名によって許す気持ちも伝えられました。

また、驚いたのは国家宗教局への訪問があったことでした。中国では宗教を管轄する部署があり、この招きに預かるといことは国としてキリスト教徒の動きに関心を示しており、政治的にも

## アジア青年大会

二月七日〜十四日、インドネシアにて、アジア太平洋地域の、エキュメニカル(超教派)の青年大会が開催されます。日本聖公会からは、中村真希さん(東京/府中聖マルコ)が参加します。テーマは、「平和と和解にむけて、共に」。主眼講演やワークショップ、イスラム共同体や農村村、ストリートチルドレンの施設などの訪問、各国の状況の共有などのプログラムが予定されています。

## 国際聖公会青年ネットワーク会議

国際聖公会青年ネットワーク会議が、四月二日から五月二日の日程で、米国コネチカットにて行なわれた。一九カ国の聖公会からの青年担当スタッフ他、聖公会正義と平和ネットワークの青年担当や国連オブザーバーなど、二二名が参加した。日本聖公会からは野村が出席。

会議の目的は、一九九七年の国際青年大会以降途切れていたネットワークをあらためて立ち上げることや青年及び青年担当者のミニストリーに関する共通理解を確認することであった。もちろん、各国聖公会の青年活動に関する分かち合いや、今後の世界の聖公会の動きに対する青年レベルの関わり方についても話し合った。

ネットワークについては、全世界をアメリカ、アフリカ、アジア、ヨーロッパと中東、オセアニアの五つの地域に分けて、それぞれ代表による運営委員会を設置することとした。第一回目の運営委員会は、二〇〇五年二月(？)にイスラエルにて、また第二回は、二〇〇六年にロンドンか南アフリカにて行なわれる予定。因に、アジア地域の代表

はフィリピン代表を選出した。このネットワークの目標として下記の点を確認した。

- ① 青年たちにおけるミニストリー
- ② アングリカン・コミュニティにおける青年のミニストリー(働き)の姿勢の明確化。
- ③ 青年の働きの資源・財源を増やすこと。
- ④ 青年に対するミニストリー
- ⑤ 青年が認められるような交わりの増加。
- ⑥ 青年たちの働きの開発と支援
- ⑦ 教会へのコミットメントを強めるため、青年のリーダーを養成すること
- ⑧ 教会のすべての意思決定に青年が参加できるように奨励する

世界の全主教会の会議であるランベス会議は、二〇〇八年に南アフリカに行なわれる予定だが、おそらくその前年二〇〇七年に国際青年大会が開かれることになるのではないかとと思われる。(管区青年委員会委員長/野村潔)

「ケンチャナヨ(大丈夫?)」の一言に救われた一週間でした。初めての日韓キャンプ参加で、右も左もわからず、おろおろしていた私に本当に沢山の人がこの言葉をかけてくださいました。何気ないその一言が、どれだけ私の支えとなってくれたことでしょうか!

日韓聖公会青年交流プログラムとは、日本と韓国の聖公会の次世代を担う若者たちが一週間のキャンプを通してお互いの理解を深め、聖公会の未来を考えると、企画です。

一〇回目を迎えた今年八月一日から二四日まで韓国全州で開催されました。キャンプの前半は市内の大学の寮に宿泊させていただき、全州の歴史的建造物を見学したり、歴史を学んだり、伝統芸能であるパンソリを学んだりし、後半は現地の信徒さんのお宅へホームステイをしたり、来蘇寺というお寺に泊まり、仏教を肌で感じたりと本当に沢山の経験をさせていただきました。

韓国への理解等、このキャンプで学んだことはどれも貴重で大切なものばかりです。けれど一番大きなものは人のやさしさには国境などないということだったと思います。スタッフの皆さん、諸先生方、ホームステイのお宅の方々、全州教会の皆さん、そしてこのたびの仲間たち。たとえ言葉が通じないことがあっても、その一生懸命な気持ちはいつも私の心を暖かくしてくれました。感謝をすればきりがありません。いろいろ不安はあったけれど、参加してよかった。みんなに出会えてよかった。この旅で得たこと全てを後の人生の糧とし、世界中の困っている人々へ「国境を越えた「ケンチャナヨ」の一言がぼつと出せる様なグローバルな人間になりたい」とキャンプを終えたい、しみじみと思うのであります。(北海道・釧路聖パウロ/広谷基子)

**発行所 日本聖公会全国青年ネットワーク事務局**  
 名古屋市中区宮東町20名古屋学生青年センター内  
 tel 052-781-0165 fax 052-781-4334  
 e-mail youth.po@nssk.org  
 web http://www.nssk.org/province/youth/